

令和三年度 後期 卒業式 答辞

草木が少しずつ冬の眠りから覚め、ひと雨ごとに野山も街も春色に染まり始めています。本日は、私たちの旅立ちの日に、心のこもった卒業式で祝福していただきまして、卒業生一同、心より感謝いたします。

私たち二十八名は、新入が八名、転編入が十三名、転籍が七名です。高校卒業という目標に向けて歩み続けた結果、今日の日を迎えられたことに、大きな喜びを感じています。

ここにいる卒業生は、通信制に入ってきた時期も理由もこれまでの経験もそれぞれ違います。その中で、今日私が代表としてこの場に立たせていただいたことに感謝しています。決して平坦な道ではなかったけれども、振り返ってみると、こんなにも進んできたんだなあとその距離の長さに改めて気づくことができました。

私は、小学校高学年から中学校まで、ほとんど学校に行くことができませんでした。人と話すことが怖くなり、何か責められているような気がして、制服や教科書を目にするのもつらくなりました。中学入学前後は保健室登校をしていましたが、それもうまくいきませんでした。体調がすぐれなかったこともあり、病院やフリースクールに時々通うこと以外はほぼ家から出られない日が続くようになりました。学校の勉強に追いついていけない焦りや授業が受けられなかった後悔から、いつも自分を責めていました。その頃の私は心身共にぼろぼろだったように思います。

それでも、昔からの憧れだった高校進学という夢は諦めきれませんでした。そこでスクールの先生の勧めもあり、通信制への進学を考えるようになりました。「人生を再スタートさせるつもりで中学校までの心残りを取り戻したい。高校進学を自分を変えるきっかけにしてみせよう。」そんな思いから、自分のペースで学ぶことのできる通信制に入学しました。

入学したばかりの時は無理をしてしまうことも多くありましたが、授業を受けたり、友人と会って話したりできることが幸せで、スクーリングが毎週の楽しみになっていきました。レポートや単位認定試験に合格できるか不安でしたが、卒業という目標のために全力で取り組みました。

徐々に自分のペースもつかめてきて、バス旅行などの学校行事への参加や、休みの日に積極的に外出することもできるようになりました。そして二年生からは、新しくできたeスポーツ部に入部しました。私は今まで行事や部活動にあまり参加できず、高校でそれらを体験できたことで、さらに学校生活が色鮮やかになりました。集中して取り組んだ授業。汗だくになって楽しんだバドミントン。休み時間に他愛もない話をしたひととき。友人たちと笑いあって過ごした時間はどれも、かけがえのない思い出です。

入学した頃は、今まで登校できなかった自分が卒業できるのか不安でいっぱいでした。ですが、「面接指導」という先生から直接授業を受ける形で学んでいくうちに、一人で学習していた中学校の時よりも勉強が楽しくなり、大学で学びたいという新たな目標を持つまでになりました。大学受験には自信がありませんでしたが、先生方や友人からの励ましに支えられ、合格することができました。四月からは大学で建築士の資格取得を目指します。

先生方、いつも熱意をもってご指導くださりありがとうございました。質問や相談にも親身になって答えてくださり、いつも私たちの味方でいてくださったことで、安心して学校生活を送ることができました。

家族にはたくさん迷惑や心配をかけましたが、私が弱気になった時も明るく励ましてくれ、どんな時も私を支えてくれました。私以外の心配事や大変なこともあったはずなのに、いつも私の選ぶ道を応援し寄り添ってくれたことに感謝しています。

昔の私は、過去のつらさや後悔にとらわれるあまり、今の自分に目を向けることができませんでした。ですが、過去の自分が今の自分を築いてくれていると思えるようになり、目を背けていた過去の自分にも向き合うことができるようになりました。勇気はあるけれども、周りの力を借りながら前へ進み、あきらめることなくがんばったからこの日が来たのだ。努力してきてよかった。卒業を迎えた今、私は自分を肯定できるようになりました。

これまで関わってくださった方々の支えなくして、私たちが卒業証書を手にすることはできませんでした。まだ先の見えない世の中ですが、「すべてのこと感謝せよ」という校訓のように、感謝と思いやりの心を忘れず、どんな形であっても人との繋がりを大切に歩んでいこうと思います。そして、学校生活を通して得られた多くの宝物を胸に、夢へ向かって一歩ずつ、自分の歩幅で進んでいきます。

最後になりましたが、今まで私たちを支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちと共に、母校、聖光高等学校の益々の発展を願い、答辞といたします。

令和四年 三月五日

卒業生代表

摩嶋夏美